

下関市中学生米国派遣研修を終えて

団長（下関市総合政策部国際課主任） 阿部 さおり

令和元年度下関市中学生米国派遣研修の団長として、令和元年7月31日～8月6日の日程で下関市と姉妹都市であるアメリカカリフォルニア州、ピッツバーグ市を訪問しました。

この研修は今回で20回目（2000年から20年連続）となり、これまでに160名の団員が派遣されています。今年度は、中学3年生のみを対象とし、作文審査、日本語及び英語による面接を経て男子1名、女子7名合計8名の団員が選ばれました。

団員は、事前研修4回、副市長表敬（出発式）、現地研修、事後研修2回、研修報告会を行いました。

事前研修では、国際親善大使として現地の方々の下関について知っていただくためのプレゼンテーションと学校交流時の出し物の企画をはじめ、パワーポイントの作成、日本語及び英語での原稿作成や発表練習を中心に準備を行いました。また、それと並行して各自の研修テーマやレポートの準備などを行いました。この事前研修において、団員達にとってとても心強かったことは、前年度の団員達との質疑応答の時間ではないでしょうか。海外を訪問することが初めてという団員がほとんどでしたので、この時間を設けることで不安が少し解消できたようでした。

そして現地での研修期間中、団員は万全のサポートを受けながら充実した時間を送ることができました。ピッツバーグ市へ到着した際、長旅で疲れていた団員達でしたが、ホストファミリーの皆様のお心温まる歓迎を受けると一気に表情が明るくなりました。翌日は、ピッツバーグ市役所において市役所関係者や、ホストファミリーの皆様の前で下関市のプレゼンテーションを英語で発表しました。最初はとても緊張していた団員達でしたが、プレゼンテーションの中にクイズを盛り込んでいたため、ピッツバーグの皆様とコミュニケーションを取りながら発表を行うことで、次第にリラックスし、堂々と発表を行うことが出来ました。現地の方々の一生懸命聞いて下さる姿や自分たちの英語が伝わる喜びに次第にリラックスし、堂々と発表をすることができました。その後、普段映画やテレビでしか見ることが出来ないピッツバーグ警察署の中を見学させて

いただき、白バイやパトカーの試乗も体験しました。このあと、高校や中学校を訪問し、夏休みにもかかわらず多くの学生たちが出迎えてくださり、校内やマーチングバンドなどの部活見学、またプレゼンテーション発表や折り紙による交流を行いました。同じ年代の学生たちとの交流は、団員達にとっても貴重な経験になったようです。

さらに、3日目のサクラメントへのショートトリップでは、州議会の建物を見学し、オールドサクラメントという西部時代の雰囲気を残した街の散策をピッツバーグの学生たちと一緒に見学しました。最初は、なかなか恥ずかしがって現地の学生たちと交流をするより、自分たちで固まるが多かった団員達も、3日目になると混合グループで行動していたこともあり、積極的にコミュニケーションをとるようになっていました。

最終日のプールパーティーでは、ホストファミリーの皆様をはじめ、お世話になった方々への感謝の気持ちを込めて、ビンゴ大会で日本らしい小物をプレゼントし、また空手を習っている団員達による演舞披露などを行いました。

そしてピッツバーグを離れる日、集合場所へホストファミリーと一緒にやってきた団員達はとても寂しそうに、お互いに泣きそうになりながらハグをしたり、写真を撮ったりなどホストファミリーとお別れをしていました。

言葉も自由に操れず、文化も習慣も異なるピッツバーグにおいて、実際に見て、聞いて、体験したことで、団員達は一回りも二回りも成長したのではないのでしょうか。研修後に提出してもらった米国研修体験記で、たくさんの気づきや熱い思いを団員達は書いてくれました。この研修に応募する際に提出してもらった志望動機の作文とは異なった視点で。実際に経験した後ではこんなに違うものなのかと驚くとともに、団員達がいかにたくさんのことを吸収したのか実感させられるものでした。

今回研修した団員達には、ホストファミリーとの交流を続けること、そして一緒に参加した団員同士、仲間として交流を末永く続けてほしいと団長として願います。そして、今回の研修が団員達にとってかけがえのない思い出になり、これからの人生の糧にしてほしいと思います。

最後になりましたが、今回の研修に際しまして、団員ご家族の皆様のご理解やご協力、ソロプチミスト東下関様からのご支援等、本当にたくさんの方々からのサポートをいただきました。団員一同心から感謝しております。本当にありがとうございました。